

賃上げの社会的広がりへ安心社会実現!!



～2022 春闘勝利総決起集会～



「2022春季生活闘争勝利福島県中央総決起集会」は、3月5日（土）ラコパふくしまにおいて、コロナ蔓延防止期間に配慮したハイブリット方式で開催し、集会は121名が参加した。諸橋連合福島事務局長、菅井福島地区連合議長が議長を務め、主催者挨拶で今野泰会長は、『東日本大震災から11年目となる被災された方々に哀悼の意を表し、また避難されている方々の、一日も早い日常の生活に戻れることを祈念する。生命と日常のありがたさを痛感している私たちにとり、ロシアのウクライナ軍事進攻に、驚愕と憤りを禁じ得ない。



主催者挨拶をする今野泰会長



決意を述べる塩澤事務局長（左）と中丸副執行委員長（右）

このような中、2022春季生活闘争の取り組みとなる。コロナ感染拡大や原材料・原油高騰の経済への影響、そして緊迫するウクライナ・ロシア情勢が世界経済の混乱など、極めて難しく難しい環境での取組となる。しかし、相次ぐ生活必需品の値上げとインフレの進行で、生活の改善。自衛策としての賃金上げの重要性と必要性は増している。コロナを



連帯挨拶をする立憲民主党県総支部金子恵美代表

越え、働くことを軸とする安心社会の実現は、賃上げの流れを継続、分配構造の転換に繋がる賃上げ、人への投資と月例賃金改善にこだわる交渉を進め、最大限の回答を引き出し、社会的広がりが我々の責務。皆さんのご奮闘をご祈念し、連合福島は、先頭に立って頑張る』と決意を述べた。

引き続き、金子恵美立憲民主党県連代表、丹治千代子社民党県連副代表、高橋秀樹県民連合幹事長から連帯、激励のご挨拶頂いた。構成組織の決意表明で、電機連合の塩澤事務局長は、「何としても守る領域と各組織実態を踏まえた領域を設け、統一闘争を展開する。」と述べ。また、交通労連中丸副執行委員長は、「慢性的な人手不足、高齢化が進むなか、賃金上げによる人への投資が、会社のプラスになる」と両名から強い決意が示された。続き、宮本副会長による集会アピール採択、鈴木副会長による「ロシアのウクライナ軍事進攻に対する抗議文」が採択された。ガンバロー三唱で、全員で拳を掲げ春闘への決意を力強くアピールし集会を終えた。



アピール採択する宮本副会長(左)
抗議文の採択する鈴木副会長(右)



ガンバロー三唱で決意アピール!